

2023年度 問題分析と学習アドバイス

＜総合型基礎学力入試（公募制）＞「国語」

【2023年度の問題分析】＜総合型基礎学力入試（公募制）＞

大問2題構成で、いずれも現代文（近代以降の文章）による出題となっている。解答形式は選択式（マーク方式）で、すべて4肢の中から正解1肢を選ぶ形式であった。試験時間は60分。

大問一は、荻谷夏子他『ことばの教育を問いなおす』からの出題である。本文は、医師が治験者に治験内容を文書で説明する場合のように、専門家が一般の人に文書で説明するときには、ただ正確に説明するだけでなく、その説明がしっかりと伝わり、読み手が全体を間違いなく把握して、プラスもマイナスも承知したうえで自分の考えを形づくることができるように説明することが必要であり、それができかどうか国語力にかかっている、ということ述べたものである。文字数は約2,000字。設問数は8つ、枝間も含めた解答数は12である。設問の内訳は、熟語構成（傍線部の熟語と同じ構成の熟語を選ぶ）が1問4答、語句の空欄補充が1問2答、傍線部の内容説明が5問5答、脱文補充が1問1答であった。傍線部の説明問題5問のうち、2問が「ふさわしくないもの」を選ばせる問題である。難易度は標準レベルだが、紛らわしい問題もあり、意外なところでミスを犯しやすいので注意が必要である。

大問二は、道尾秀介「小さなノートといっしょに失くしたもの」からの出題である。若い頃、無限に約束されていると思えた自由や希望が、大人になってみると何一つ約束されていなかったことに気づかされたが、それでもその中で自分をしっかりとみつめ、自分の生きる道ができるだけ自由に描いていきたい、という作家の思いを述べた文章である。文字数は約3,000字。設問数は12、枝間も含めた解答数は16となっている。設問の内訳は、漢字（傍線部と同じ漢字を選ぶ）が1問5答、語句の空欄補充が4問4答（そのうち慣用句の問題が1問1答、接続語の組み合わせ問題が1問1答）、ひとまとまりの表現の空所補充が4問4答、傍線部の内容説明が2問2答、全体の内容正誤問題が1問1答であった。

【学習アドバイス】＜総合型基礎学力入試（公募制）＞

● 普段から精読をこころがけよう。

いずれも読みやすい文章であり、設問も難問奇問はないので、標準的なレベルの入試問題を問題集などで繰り返し解いておくことで対策は十分である。ただし、設問の中には迷うものが必ず1～2問あり、そこでしっかり得点できないと、ほかの受験生に差をつけられてしまう。読みやすい文章ではあるが、ただ漫然と読み進めていくのではなく、何が書かれていて、何が書かれていないかをしっかりと理解しながら読み進めていく必要がある。本学では「誤っているものを選ぶ」という問題が目立つが、この手の問題は、「何が書かれていないことか」を問う問題なので、慎重な読みと設問の検討が求められる。精読ができているかどうか、慎重に読み解くことができているかどうかを出題者が試しているのは明らかなので、普段から精読を心がけ、問題文をよく読み、選択肢を慎重に吟味するような勉強法が求められる。

● 語彙力と思考力を身につけよう。

語句や熟語、慣用句の出題が多いのも本学の特徴である。熟語の構成などは大学受験ではあまり見かけないが、本学ではよく出題されている。高校受験レベルの問題も見られるが、侮ってはいけない。忘れてしまっている部分も多いからである。これらの知識は簡単には身につかないので、時間をかけて知識を蓄えていってほしい。場合によっては高校受験の参考書などで知識を確認しておくことも必要であろう。

また、語彙力は読解力や思考力の源である。語彙力が向上すれば、本文を正確に読むことが可能になり、さらには、本文の内容を「考える」力にもなる。語彙力と読解力、思考力は表裏一体であり、これらは他の教科でも大きな力になる。語句や熟語、慣用句を集めた問題集などを解くのもよいし、普段から意識して辞書を引く習慣をつけるのもよいだろう。

● 読書習慣を持とう。

読書習慣があるというのは、国語力に大きなプラスとなる。本学の出題歴を見ると、決まったテーマが出されるというわけではないので、自分の好きなものでいからなるべく多く本を読むようにしてもらいたい。難しい評論文などではなく、エッセイやコラムのようなもの、あるいは新書などでもよい。その際に、單元ごとに要約したり、辞書をこまめに引いたりするのもよいが、かえって面倒くさくなって、肝心の読書から遠ざかってしまっては困る。もちろん、問題集などを解くときにはしっかりと本文に取り組んでほしいが、肩の力を抜いて読書を楽しむのもいいトレーニングになるはずだ。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私はここ数年、毎月一度、国語力というものについて真正面から考えざるを得ない場に身を置いています。ちょうどいいので、ここでそのときのことを書いてみます。

毎月一度のその場というのは、小児治験ネットワークの中央治験審査委員会という名の会議です。新しく開発された薬や、これまで成人しか使えなかった薬が、効果的に、かつ安全に、病気の子どもたちにも使えるかどうか。それを確かめるプロセスのほぼ最終段階となるのが治験です。実際の病児を対象として、厳密に決められた手順で注意深く臨床試験をして、きちんとした科学的分析を経て、はじめて国に承認され、一般に使えるようになります。その治験の実施にゴーサインを出してよいかどうか、それを審査するのが会議の役割です。小児治験がなかなか進まないことをなんとかしようと、二〇一〇年に全国の小児病院を中心にしたネットワークが作られ、一括して審査したり、情報を共有したりしています。今では全国で四〇を超える施設が加盟し、東京の成育医療研究センターに事務局が置かれています。この九年ほどの間に六〇件ほどの新規審査をし、一三の薬剤・機器が承認を受け、小児に使えるようになりました。

治験審査委員会には医療のさまざまな分野の錚々たる専門家ソツツウ（注一）が十数人も集まって、慎重に審議します。メンバーには医療を専門としない「非専門委員」を含まなければならない、というルールがあります。医療の立場だけでは

審査が行われることを防ぐための配慮で、たとえば、法律の専門家も加わっています。そしてそのルールのために、まったく門外漢の私①がそこに加わるようになりました。私は、一般人の立場、患者に近い立場、また文書についての専門という立場で会議に参加しています。

会議は毎月開かれ、新規の治験をスタートさせて大丈夫か、進行中の治験で心配な有害事象が起きていないか、などを、たいへん真面目に審議します。良い新薬が世に出れば、それで救われる患者が確かにいる、と同時に、薬と毒は紙一重、という面もありますから、治験に関わる人たちはみな真剣です。

治験は厳密に科学的な手順で行われるために、患者やその保護者が守らなければならない重要なことも多くあります。通常の治療とは違う部分がありますし、思いがけない有害事象が起きる可能性もあります。そうしたことを、患者や保護者には予め包み隠さず丁寧に公平に説明し、理解してもらい、その上で治験参加の同意を得なければなりません。そのために作られた文書は、保護者向けの「同意説明文書」の場合、三〇ページ以上にもなります。小学校高学年向けの「アセント文書」（注二）でもぎつしり一〇ページほどに及びます。

委員として私が心を配るのは、「同意説明文書」「アセント文書」が、一般の人にとって十分にわかりやすいか、必要なことがきちんと書かれているか、丁寧に読んでもらえるように工夫がなされているか、煩雑すぎないか、といったことです。できるだけわかりやすい文書にするために、必要な見直しや修正を提案します。

世の中には、ちゃんと読まれることを想定しているとは思えない一方的な文書や、極小の文字で書かれた不親

切な文書は珍しくありません。それを考えれば、治験のためのそうした文書は、きちんと伝えようと丁寧に誠実に書かれていると言えます。ただ、当然ながら、トラブルを避けるための法的な観点からも、治験実施側が患者に予め説明しておくべきとされる事柄が、驚くほどたくさんあります。患者側としての「知りたい」「わかっている」「わかってほしい」ということは別に、「理解しておいていただきたいこと」が山ほどあるのです。知る ④、知らせる ⑤ を重く見る今という時代を反映しているわけです。

数年間も毎月会議に出席して、だいぶ慣れてきた私ですが、会議の一週間前に自宅にどーんと分厚い資料一式が届いても、一読しただけでは容易にはわかりません。それでも、⑥ ことばを追いながら、国語力だけを頼みに読んでいきます。(A)「ここがわからない」とはつきり言うためには、ある程度は全体がわかっている必要があるのだとつくづく思います。(B)委員会の中で、私は一般人として、わからない時は「ここがわかりません」と言うのが役目ですが、それでも、わからないことに出会うたびに「わからない」と言うのは心理的負担も感じます。私だけが一般人で、他は全員専門家という状況で「私をわからせて」と主張すること自体に、胆力を要します。

それで私は毎月、思うわけです。病気の子の心配を抱えて治験の説明を受けるとこかの若いお父さんやお母さんは、この長い込み入った文書を、ずらずらと並ぶ専門用語に負けず、複雑な手順の説明にも、起きるかもしれない怖い出来事の列挙にもへこたれずに、一つ一つちゃんとわかりながら読んでいくだろうか。(C)疑問や

迷いがあるならそれを伝え、早合点や勝手な解釈などせず、あきらめず最後までしっかりと読みきる。そしてただ目の前の各部分部分を理解するだけでなく、全体を間違いなく把握して、プラスもマイナスも承知して、その上で、治験に参加するか、しないか、自分の考えを形づくることができるだろうか。(D)途中で疲れてしまつて、理解することを放棄して、「先生が勧めてくれるんなら、やりますよ」と判断を人にゆだねたり、専門用語を前に意気阻喪^{ソッウ}して、空返事で説明を聞き流し、さつさとサインしてしまつたり、逆にめんどうくさくなつて「やめた!」となつたりしないだろうか。どうか、あらん限りの国語力を自分の中からかき集めて、丁寧に読んで、理解し、納得して、決めてほしい……。

こんなふうには私は、毎月、⑦ 国語力というものが発揮されるべき現場を突きつけられるように思うのです。

(荻谷夏子他『ことばの教育を問いなおす』より)

(注1) ……多くの中でとくにすぐれているさま。

(注2) ……治験について理解してもらおう事柄を記した文書。

(注3) ……気持ちがあくくじけて元気がなくなること。

問一 波線部ア～エについて、同じ語構成の熟語を、次の1～4からそれぞれ一つずつ選べ。

- 1 成功
- 2 達観
- 3 把握
- 4 屋外

アは解答欄(1)にマークすること

イは解答欄(2)にマークすること

ウは解答欄(3)にマークすること

エは解答欄(4)にマークすること

問二 傍線部①の説明としてふさわしいものを、次の1～4から一つ選べ。

- 1 そのことについて専門家でない人。
- 2 そのことについて分野の近い専門家の人。
- 3 当事者ではなく、そのことに関係がない人。
- 4 そのことの当事者だが、専門外の人。

解答欄(5)にマークすること

問三 傍線部②の説明としてふさわしくないものを、次の1～4から一つ選べ。

- 1 ある人には薬になることが、他の人には毒になること。
- 2 病気を治すための薬も、適量以上のめば害毒となること。
- 3 同じものが使い方によって、毒にも薬にもなること。
- 4 害毒にもならないが、薬として役にもたないこと。

解答欄(6)にマークすること

問四 傍線部③の説明としてふさわしいものを、次の1～4から一つ選べ。

- 1 読み手のことだけを考えて、専門的用語を一切使わずに、こどもにもわかるように書かれた文書。
- 2 書き手が書きたいことを、自らが身を置く分野の専門的用語を注釈もせずに使って書かれた文書。
- 3 読み手のことを考え、専門的用語には親切な注釈を加えながら、平易を心がけて書かれた文書。
- 4 書き手の知識に基づき、読み手への伝わり方を第一に考えて専門的にわかりやすく書かれた文書。

解答欄(7)にマークすること

問五 空欄部④と⑤に入る言葉として、最も適当なものを、次の1～4から一つずつ選べ。

- 1 自由 2 権利 3 責任 4 義務

- ④は解答欄(8)にマークすること
⑤は解答欄(9)にマークすること

問六 傍線部⑥の読み方の説明としてふさわしくないものを、次の1～4から一つ選べ。

- 1 専門的なことばに対する理解は置いておき、まずは自分の持っている日本語を理解する力だけでどれだけ理解できるか、どこが理解できないかを把握する読み方。
2 自分の持っている日本語を理解する力だけを頼りにして、送られてきた分厚い資料の専門的なことばをどこまで理解することができるかを確かめる読み方。
3 分厚い資料の専門的なことばを一つ一つ理解できるかどうか確認しながら、自分の持っている日本語を理解する力でどこがわかりにくいかを明らかにしていく読み方。
4 自分の持っている日本語を理解する力を基盤として、誰もが理解できる文章にするため、わかりにくい専門的なことばを一つ一つ訂正していく読み方。

解答欄(10)にマークすること

問七 次の一文が入る空欄部を、次の1～4から一つ選べ。

わからないことがあったら「ここがわかりません」とはつきりと言って、納得できるまで説明を求めることができるだろうか。

- 1 (A) 2 (B) 3 (C) 4 (D)

解答欄(11)にマークすること

問八 傍線部⑦の「現場」として最もふさわしいものを、次の1～4から一つ選べ。

- 1 会議の一週間前にやってくる分厚い資料を、「わからない」ところを探しながら読む現場。
2 毎月一度開かれる、小児治験ネットワークの中央治験審査委員会という名の会議の現場。
3 新規の治験の開始の是非や、進行中の治験で有害事象が起きていないかなどを審議する現場。
4 治験への参加を判断するため、自分の国語力をかき集め総動員して同意説明文書を読む現場。

解答欄(12)にマークすること

二、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

いくつかのインタビューで「初めて小説を書いたのは十九歳のとき」と言っているけれど、じつはあれは嘘で、本当はもっと前に書いたことがある。

最近思い出したのだが、僕が初めて小説を書いたのは小学校五年生のときだった。本なんてまともに読んだこともないくせに、手のひらサイズの横罫ノートを文房具屋で買ってきて、そこに汚い字で小説を綴りはじめたのだ。動キ^①はまったく憶えていないけれど、たぶんテレビで作家が映っているところでも見たのだろう。何にでも影響を受けて真似するくせに、すぐ放り出すという、僕の小説にはあまり出てこないタイプの、非常に少年らしい少年だった。

あれはたしか「人形」というタイトルで、ジャンルでいうとホラー、ミステリー、スプラッター……とにかく何だか気持ち悪い話だった。一人称で、主人公は三十過ぎの男性。冒頭でいきなり暗い部屋に閉じ込められていて、周囲には無数の人形が並び、みんなして彼のことを睨みつけている。その人形たちは、いつたいこれから何をしようとしているのか。彼の身体を食べようとしているのだ。では何故、そんな事態が生じたのだろうか。それが主人公の独白によって徐々に語られていくという、ちよつと魅力的な小説だった。

が、カン心^②な部分が思い出せない。

どうして彼は人形に山分けされて食われることになつたのだろうか。古い洋館のようなイメージと、ひどく無表情な大勢の男女、誰もいない部屋にぼつんと置かれている人形、その人形に何かとても大事なことを囁いている主人公の姿。——そういったものが、おぼろげに浮かんでくるのだが、物語はすっかり「A」の策^{さる}から抜け落ちてしまっている。あの小さなノートはどこへ行ってしまったのだろうか。あまり期待もせずにあちこち探してみたが、やっぱり見つからなかった。

「B」の^③だけど、以前刊行された『プロムナード』（ポプラ社）というエッセイ集に「緑色のうさぎの話」という絵本がシユウ録^③されている。いくつかのインタビューで、これは僕が十七歳の冬に初めて描いた絵本だと話しているが、やはり嘘だ。前述した「X」のことを考えているうちに思い出したのだけど、同じノートの後ろのほうに、僕は絵本らしきものを描いていた。

バス停で三十過ぎくらいの男性がバスを待っている。彼の左右には、たまたま「C」二人の男——頼に切り傷のあるヤクザと、リーゼントで剃り込みの入った不良が立っている。そんな二人に挟まれて、男性は身体を硬くしているのだけど、そこへ一匹の蠅がふらふらと飛んでくる。男性はそれを見て「はえー」と呟く。呟いてしまう。当時オヤジギャグという言葉があったかどうか憶えていないが、つまりはその種の発言で、ほとんど無意識的に口から出てきたものだった。呟いたあと、彼はハツとする。

a いまの発言がギャグだとわかったら、二人はキレてしまうのではないか。自分は二人に、ひどい目に遭わされてしまうのでは？　そこで彼は、「は

えー」がギャグではなかったと二人に思わせるため、必死の努力をしはじめるのだ。

が、彼が実行したその必死の努力というのも、やはり憶えていない。まったくもって時間というのは残酷だ。ストーリーはさておき、その小さなノートに鉛筆でかいた小説と絵本のことを考えているうちに、面白いことがあった。いま僕は三十年代で、小学五年生くらいの少年が主人公の物語をよく書いている。先日直木賞をもらった『月と蟹』、あるいは『向日葵の咲かない夏』や『シャドウ』。ほかの作品でも、その年頃の少年を主人公に④^④ヒン繁に登場させている。いっぽうで、自分が実際に小学五年生のときはどうだったかというところ、逆に三十年代の男が主人公の物語をノートに落書きしていたのだ。

これはいったい、どういうことなのだろう。

僕はこんなふうに考える。少年時代、自分は幼い胸に、大人に対する物語性のようなものを抱いていたのではないか。⑤^⑤ b 大人になったいまは反対に、かつて感じていたその物語性はどこかへ消え失せ、とうの昔に過ぎ去った少年時代に対して物語性を抱いている。

「 D 」とても寂しいことだ。

実人生では周囲に散在するいろいろな物事と折り合いをつけ、諦めをひとつひとつ、まるで与えられた制服や帽子のように身に着けていかなければならない。ある瞬間、ふとまわりを見回してみれば、みんな同じような⑤^⑤ 恰コウをして、同じような顔つきで、似たような毎日を生活している。子供時代が遠ざかっていくにつれ、僕たちは

はそんな現実気づきはじめる。

c 、高校時代や大学時代はまだ希望があった。自分が身に着けはじめたその服を、いつかみんな脱ぎ捨てて、好き放題な恰コウで、好き勝手な顔をして歩いていけると信じていた。なに実際大人になると、そんなこと少しもできやせず、とうの昔に過ぎ去った時間に憧れを抱き、「 Y 」を空想して目を泳がせている。諦めを着ぶくれた自分。だんだんと空っぽになっていく、夢がたくさん詰まっていたはずの宝箱。日々胸に迫り上がってくる冷水のような不安。それらを少しでも愚痴ろうものなら、それが大人になるということだと笑われる。

ずっと昔、フランスの哲学者ルソーはこんなことを書いた——「自由はどんな統治形態のうちにもない。それは自由な人間の心のなかにある。自由な人間はいたるところで自由をもっている」。学生時代は、それを本当だと思っていた。なんて的確な、素晴らしい言葉なのだろうと感動した。しかしいまは、同じその言葉を正視できず、斜めになって眺めている自分がある。大人は生きていかなければならない。いろんな人を生かしていかなければならない。自分のまわりに、自由なんて、もう何年も見かけていない。

作家などという職業に就いていると、「自由でいいですね」なんてニュアンスのことをよく言われる。しかし、そんなわけではない。作家になる前に二つほど会社に勤めて営業マンをやっていたけれど、はつきり言って日々の暮らしはその頃と何も変わらない。周囲の期待。自分の矜持^{きょうじ}。やらなければならないことは日々増えていくばか

りで、いつの間にかそれらの中に生き埋めになっていき、気がつくくと、頭を持ち上げることさえも難しいような場所でした。小説の中では好きなことができるけれど、そんなのは営業マンだって同じだ。

d

作家の場合、たとえば一年間の休みをつくろうと思えばできないことはない。しかし、普段お世話になっている大切な人たちが、僕の原稿を待っていてくれる。その人たちに迷惑をかけることなんて、僕には死んでもできない。だからきつとこれからも、じたばたと生きていくことだろう。

でもべつに、すっかり諦めたわけじゃない。いまからでも遅くはない。あの小さなノートを、僕はもう一度手に入れようと思っている。大人用のノートは文房具屋には売っていないから、自分の力できり出すつもりでいる。いま僕がそこに書くのは小説じゃなく、絵入りの物語でもない。僕はそこに「いま」を書こうと思っている。過去でも未来でもない、いまの自分を主人公にして、毎日毎日少しずつ、できるだけ壮大で、死ぬ間際に「おしまい」と書いたとき、誰にでも見せびらかすことができるような物語を綴っていくと思う。着なければならぬ服、履かなければならぬ靴はある。大人なのだからしょうがない。脱ぎ棄てることなんて、どう頑張ったって無理である以上、僕はせめて「E」と思う。それができれば、この手で書く作品だって、きつともつと進化してくれる。そう信じたい。信じている。

古い小さなノートを捜しているうちに、大学生のときに書いた小説が出てきた。

タイトルはない。存在さえすっかり忘れていた短編小説で、ためしに読んでみたら、内容のくだらなさに笑っ

てしまった。笑いながら思った——いまの僕には、きつとこんな小説は書けないだろう。クオリティーが低すぎて人に見せられないという意味ではない。こういつたものを書く力を、僕はいつのまにか失ってしまったのだ。

まだルソーの言葉を信じていた頃、胸にたくさんの希望が詰まっていた頃、自分が書きたくならない物語を、これから僕がいままで以上にいい小説を書いていくという約束手形として、ここにそのまま掲載させてもらう。

(以下、掲載作品は省く)

〈道尾秀介「小さなノートといっしょに失くしたもの」『直木賞受賞エッセイ集成』より〉

問一 傍線部①～⑤と同じ漢字を使用している熟語はどれか、次の1～4からそれぞれ一つ選べ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|---------|---|----------|---|----------|---|---------|
| ① | 1 | キ録をとる | 2 | 驚いてキ絶する | 3 | 学キ末試験 | 4 | キ械仕掛け |
| ② | 1 | 首相カン邸 | 2 | スポーツのカン戦 | 3 | カン炎を患う | 4 | 閉カンの時間 |
| ③ | 1 | ゴミのシユウ集 | 2 | 優シユウな人材 | 3 | シユウ態を演じる | 4 | 悪シユウを放つ |
| ④ | 1 | 気ヒンあふれる | 2 | ヒン出する漢字 | 3 | ヒン死の重傷 | 4 | ヒン困な生活 |
| ⑤ | 1 | 濃コウな味 | 2 | コウ意を抱く | 3 | 対コウ馬 | 4 | 時コウの成立 |

- ①は解答欄(13)にマークすること
- ②は解答欄(14)にマークすること
- ③は解答欄(15)にマークすること
- ④は解答欄(16)にマークすること
- ⑤は解答欄(17)にマークすること

問二 空欄「 A 」に入るもつとも適当な語はどれか、次の1〜4から一つ選べ。

- 1 想像
- 2 空想
- 3 記憶
- 4 現実

解答欄(18)にマークすること

問三 空欄「 B 」に入るもつとも適当なものはどれか、次の1〜4から一つ選べ。

- 1 話は突然大きく変わる
- 2 話は変わるようで変わらない
- 3 話はそのまま続きがある
- 4 話はみんなの了解を得ていない

解答欄(19)にマークすること

問四 空欄「 C 」に入るもつとも適当なものはどれか、次の1〜4から一つ選べ。

- 1 辻褄を合わせた
- 2 口を合わせた
- 3 鉢合わせた
- 4 居合わせた

解答欄(20)にマークすること

問五 空欄「 D 」に入るもつとも適当なものはどれか。次の1〜4から一つ選べ。

- 1 「むかし」にも物語性を感じられなくなるというのは、
- 2 「いま」に対して物語性を感じられないというのは、
- 3 物語性のあった子供時代が遠ざかっていくというのは、
- 4 物語性のあった大人にならざるを得ないというのは、

解答欄(21)にマークすること

- 問六 空欄「 X 」に入るもつとも適当な語はどれか。次の1～4から一つ選べ。
- 1 事態
 - 2 少年
 - 3 作家
 - 4 人形

解答欄(22)にマークすること

- 問七 空欄 に入る言葉の組み合わせとしてもつとも適当なものを、次の1～4から一つ選べ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | a | それでも | b | しかし | c | もちろん | d | もし |
| 2 | a | もし | b | しかし | c | それでも | d | もちろん |
| 3 | a | もちろん | b | それでも | c | もし | d | しかし |
| 4 | a | しかし | b | もし | c | もちろん | d | それでも |

解答欄(23)にマークすること

- 問八 点線部の意味としてもつとも適当なものはどれか。次の1～4から一つ選べ。
- 1 人生は無常なので、どんな物事にも期待しないように努めること。
 - 2 物事はすべて簡単に諦められることがないので、挑戦だけはし続けること。
 - 3 いろいろな物事とある程度譲り合って納得できる妥協点を定めること。
 - 4 人生に起きる物事にはすべて定めがあるので、それを見極め従うこと。

解答欄(24)にマークすること

- 問九 波線部の意味として最も適当なものはどれか。次の1～4から一つ選べ。
- 1 どんなに稚拙なものであっても自由と希望を抱いて書くことのできるような小説。
 - 2 過ぎ去った時間に憧れを抱き日々の胸に迫り来る不安を抱えて書く小説。
 - 3 世の中を斜めに眺めながら大人としていろいろな人を生かしていくために書く小説。
 - 4 小学五年生の頃のように三十代を主人公として、憧れと物語性を書く小説。

解答欄(25)にマークすること

問十 空欄「 Y 」に入るもつとも適当なものはどれか。次の1〜4から一つ選べ。

- 1 あったかもしれない少年時代
- 2 あったはずの少年時代
- 3 ありえなかった少年時代
- 4 あったであろう少年時代

解答欄(26)にマークすること

問十一 空欄「 E 」に入るもつとも適当なものはどれか。次の1〜4から一つ選べ。

- 1 いまの自分を主人公にしてすっかり生きていこう
- 2 大人として履かなければならない靴に早く慣れよう
- 3 それらを自分の好きな色に塗り直してみよう
- 4 ルソーの言葉を信じていた頃を思い出して書いてみよう

解答欄(27)にマークすること

問十二 本文の内容と合致しないものはどれか。次の1〜4から一つ選べ。

- 1 僕は、僕の小説にはあまり出てこないタイプの、非常に少年らしい少年だった。
- 2 僕が十七歳の冬に、初めて絵本を描いていたという話には嘘があった。
- 3 学生時代は、自由な人間はいたるところで自由をもっていると思っていた。
- 4 僕はノートに少年時代の自分を主人公にして物語を書こうと思っている。

解答欄(28)にマークすること

以上で問題は終わりです。

国語 総合型基礎学力入試（公募制） Ⅲ期

| 大問 | 解答番号 | 解答例 | 配点 | 大問 | 解答番号 | 解答例 | 配点 |
|----|------|-----|----|----|------|-----|----|
| 一 | 1 | 3 | 4 | 二 | 13 | 4 | 3 |
| | 2 | 2 | 4 | | 14 | 3 | 3 |
| | 3 | 4 | 4 | | 15 | 1 | 3 |
| | 4 | 1 | 4 | | 16 | 2 | 3 |
| | 5 | 1 | 4 | | 17 | 2 | 3 |
| | 6 | 4 | 4 | | 18 | 3 | 3 |
| | 7 | 2 | 4 | | 19 | 2 | 3 |
| | 8 | 2 | 4 | | 20 | 4 | 3 |
| | 9 | 4 | 4 | | 21 | 2 | 3 |
| | 10 | 4 | 5 | | 22 | 4 | 3 |
| | 11 | 3 | 4 | | 23 | 2 | 3 |
| | 12 | 4 | 5 | | 24 | 3 | 4 |
| | | | 25 | | 1 | 4 | |
| | | | 26 | | 1 | 3 | |
| | | | 27 | | 3 | 3 | |
| | | | 28 | | 4 | 3 | |